

抗議文

日本共産党平塚市議会議員団

団長 渡辺敏光

松本敏子

「女性市長とあゆむ平塚」(No. 33 08年10月7日発行)の内容に対し、日本共産党平塚市議会議員団は、強く抗議をするものです。

日本共産党平塚市議会議員団は、9月25日の9月定例会最終日、一般会計補正予算に反対の態度をとりました。その理由は補正予算の中に「65歳以上の方の住民税を来年10月より年金天引きをするための準備経費が入っている」この一点に対し反対をする、そして、西口東地駐輪場については、市長提案の内容を支持していると明確に述べ討論をしました。

しかし、「女性市長とあゆむ平塚」では、この反対理由には全くふれず、私たち日本共産党平塚市議会議員団が駐輪場建設に反対のために、一般会計補正予算に反対したとなっています。それは、「3会派18人の議員が補正予算に反対し、一連の駐輪場計画がつぶされました」、「予算案に反対した理由は、商工団体から要望のあった1階への店舗併設が受け入れられなかったことです」としており、この内容は、私たちが他の2会派と同じ理由から補正予算に反対しているとしか理解できません。

私たちの予算や補正予算に対する賛否の基本的な考え方は、その内容に支持できるものがあっても、市民の生活にとって今後大きな負担を押しつける内容が含まれている場合には、反対の立場をとってきました。それが予算に対する賛否の表し方です。だからこそ、議会での討論では何に賛成で、何に反対かその理由を示してきています。

今回の貴組織発行のニュースの内容は、全く正確ではなく、多くの市民に誤解を与えるものです。これに対し強く抗議をし、早急に私たちの見解を正しく掲載することを求めるものです。